

巻頭言

2020 年, 夏, 熊本



木村 昭悟

(日本電信電話 (株) コミュニケーション科学基礎研究所)

3 000 名近い方々にお越しいただいた新潟での全国大会での熱気も覚めやらぬ中, 次回第 34 回の全国大会の準備が森川幸治大会委員長 (パナソニック) のもと, 着々と進んでおります。前回全国大会交流会および会誌 9 月号 (Vol. 34, No. 5) 会告で案内致しましたとおり, 次回大会は 2020 年 6 月 9 日 (火) ~ 12 日 (金) の日程で, 熊本県熊本市の熊本城ホールにて開催致します。2020 年は周知のとおり, 東京でオリンピック・パラリンピックが夏に開催され, それに伴う各種イベントで大きな催事場の争奪戦が行われています。そのような中, 2019 年 12 月にグラウンドオープンとなり, 空港や新幹線からのアクセスにも優れ, 多くの方のご来場にも耐え得る容量をもつ大変素晴らしい会場で全国大会を開催できることを嬉しく思います。

前回 2019 年度の新潟大会では, 越仲孝文実行委員長 (NEC)・大澤幸生プログラム委員長 (東京大学) のもと, 数多くの新しい試みがなされました。その代表的な施策が国際セッションの新設でした。世界的なブームが継続する人工知能分野において, 日本の研究水準をさらに向上させるとともに, 日本が世界的なプレゼンスを高めていく。この大きな目標に向け導入された取組みの一つである国際セッションは, 次回熊本大会においても継続・推進致します。初めての試みゆえに賛否両論の数多くのご意見を頂戴しておりますが, これらのご意見を少しでも数多く反映して, 大きな目標に一步でも近づけるよう, 片上大輔プログラム委員長 (東京工芸大学) を筆頭に数多くの委員の皆様のご協力をいただきながら準備を進めております。

また, 2018 年から始まった人工知能の新たな活用法や社会実装・受容に向けた課題などを議論する企画セッション, 2017 年から始まった産業界における人工知能技術の具体的な応用事例・技術やニーズを紹介するインダストリアルセッションなどの比較的新しい取組みも継続して実施致します。最新の研究成果がフリーアーカイブに連日投稿され, その実装もオープンレポジトリで公開されることが当たり前となり, 人工知能技術のビジネス展開・社会実装もかつてないほどの速度で実現できる時代において, これらのセッションのもつ意味は日に日に増しています。その他, 基調講演・招待講演・オーガナイズドセッション・チュートリアルなど, 充実の企画を準備致します。

「平成 28 年熊本地震」により熊本県全域が甚大な被害を受け, その復興はいまだ道半ばです。熊本市のシンボルの一つである熊本城も例外ではなく, 本稿執筆時 (2019 年 9 月) でも天守閣を中心とした広い範囲が依然として立入規制区域に指定されています。しかし, 2019 年 10 月には大天守外観復旧を記念した土日限定の特別公開第 1 弾が始まり, 2020 年春にはより広い範囲を平日にも見学できる特別公開第 2 弾が開始されるなど, 熊本城も新しい姿へと生まれ変わろうとしています。この熊本城の復興, 特に地震で崩落した石垣の修復では, 高精細パターンマッチング技術を基盤とする「石垣照合システム」(<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujuhou/kouhou/pressrelease/2019-file/release190524-2.pdf>) が大きな役割を担っています。全国大会会場の熊本城ホールは, その名のとおり熊本城に隣接しており, 熊本および熊本城の復興とそれを支えた人工知能関連技術を肌で感じるうえでも絶好のロケーションといえます。産官学問わず, 数多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



図 1 熊本城ホール全体イメージ (熊本市公式ページより)



図 2 2020 年春予定の熊本城特別見学通路鳥瞰図 (熊本城公式ホームページより)